

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270200902		
法人名	社会福祉法人 由起会		
事業所名	社会福祉法人 由起会(おもやい)	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市上柚木町2515		
自己評価作成日	2019年4月30日	評価結果市町村受理日	2019年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2019年5月24日	評価確定日	2019年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、立地的に山々に囲まれた環境にあり、四季折々の様々な変化を肌で感じられる所であり、ホームの周りには花壇があり春には満開の花々を楽しむ事ができます。また、外出の機会も多く春から秋にかけては、桜・藤・菖蒲・コスモスと数種類の花を見に出かけ、2ヶ月に一度程ドライブを兼ね外出に出かけます。地域の行事への参加も積極的に楽しいひとときを過ごしています。利用者一人ひとりが自分らしく、残された力を十分に発揮し、利用者・職員が共に助け合いよりよい暮らしを求めながら生活していける、笑顔の絶えないホーム作りをモットーに職員一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームおもやい”は開設から20年を迎えている。長く勤務する職員もおられ、職員個々の得意な分野を発揮して頂くと共に、日々アイデアを結集し、ご利用者の自立支援に努めてこられた。リビングと各居室の窓からは自然豊かな山々や段々畑を眺める事ができ、鶯の鳴き声も心癒される。ホームのまわりに自生する“わらび”や竹の子等を探って調理したり、秋は洗柿を購入し、ご利用者と一緒に干し柿を作られている。系列施設の理学療法士(PT)とも連携し、長い廊下で歩行訓練をされたり、ラジオ体操、口腔体操、タオル体操などを行い、洗髪や背中などの洗身が自立した方もおられる。同じ敷地内に複数の系列施設があり、心身状況の変化に応じて、法人全体で“適した住まい”の検討も続けている。ホームの4つの理念他に、「①明るい笑顔 ②思いやる心 ③気を配る心 ④優しい言葉かけ」と言う“4つの薬”も掲げており、今後も日々の生活で実践できるように努めると共に、食事の下ごしらえや散歩などの機会を増やしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、管理者と職員が共有した意識をもち実践につなげている。毎月1回ケース会議時、唱和を行っている。	職員同士の情報交換は密に行われている。「① ゆったり楽しく ②自由にのびのびと ③いつも同じ仲間、同じ環境 ④残された力で暮らしの喜びと自信を」と言う理念を大切にされており、自然豊かな環境の中でゆったりと過ごされており、日々のリハビリも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は散歩に出かけ、地域の方とあいさつを交わしたり、近くのスーパーに食材を買いに行っている。週に1度のパンの日も地域のパン工場より購入している。	公民館祭りや町祭りに出かけたり、宮司祭りでは、無病息災を祈願して“草輪ぐり”をされている。併設施設で保育園児や地域の方との交流を継続し、夏祭りではボランティアの方がフランス等を披露して下さった。2017年は柚木小学校(5年生)のアイデアで、2～3カ月に1回交流する事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設において年3回地域の方に参加して頂く介護教室を開催している。認知症の講習会等も行い、認知症に対する理解を深めたり、支援方法等も話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、行事・業務・入退所等、運営内容報告を行い、話し合いを行っている。又、包括職員の方からは地域の情報等、詳しく教えて頂いている	2018年から知見者も参加されている。日頃の活動内容の報告と共に、手作りのおやつ等を食べて頂いている。ホームの取り組みを理解して頂くと共に、認知症、感染症、災害対策などのテーマに応じて、情報交換を続けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要がある時は、随時連絡を行い、情報交換を行うようにしている。	介護保険の申請等は併設施設の担当者が行っている。不明点は介護保険課の担当者に相談し、アドバイスを頂いている。地域包括の職員から“いきいき100歳体操”のDVDをお借りできたり、適宜相談できる関係ができています。市から感染症や身体拘束等の研修案内を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加し、正しい理解は得ている。玄関の施錠に限らず、一切の身体拘束は行っていない。	身体拘束は全くなく、契約時にリスクの説明を行い、同意を頂いている。ご利用者の入退居が続き、ご利用者同士の関係性にも配慮している。入居時に感情が不安定な時は職員が寄り添い、ご利用者全員が心穏やかに過ごせるように努めている。職員の言葉遣い等の配慮も続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加している。利用者の精神状態の変化など見逃す事なく気を配り、入浴時に身体のアザ・傷など確認を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加し、正しい理解は得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安や疑問点を充分にお聞きした上で納得のいく説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の方とのコミュニケーションを取りながら意見や不満などをさりげなく聞いている。ご家族様には、面会時に近況報告と共に必ず話す機会を設けている。	入退居が重なり、ご利用者と家族の思いや要望の把握に努めてこられた。家族には面会時と共に、手紙(生活状況・健康状態)を毎月送り、県外の方には写真を同封している。居室で一緒に食事をされる家族の方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の法人全体のリーダー会や月1回のケース会議、全職員でのミーティングを実施し、各事業所の意見・問題点等を聞いて改善している。運営者・管理者は併設施設に常勤しているため随時相談可能である。	職員個々の良さを引き出すように努めている。日々の業務やミーティング時に職員同士の情報交換を密に行い、職員のスキルアップのために法人全体で研修(年6回)や委員会活動が行われている。週1回は4人体制のシフトを組んでおり、有給取得もできるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員を正規雇用とし、年1回の昇給及び年2回の賞与は確実にしている。資格取得時には定期昇給とは別に特別昇給を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも様々な研修を実施しており、法人外での研修への参加も積極的に行っている。また、介護福祉士等の資格取得も勧めている。資格取得にかかる費用も事業所が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会への出席、また、他事業所の運営推進会議へ知見者として出席し情報交換を行い、運営に役立てている		

自	外	自己評価	外部評価
---	---	------	------

己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に必ず面談を行い、本人の思い等を十分に伺い、話し合いを行い安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に必ず面談を行い、ご家族が困っている事、不安に思っている事、要望等を十分に話し合い安心して入所して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、ご本人やご家族等と面談を行い十分に話し合い、必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者と共に基本姿勢(四つの薬)を毎日唱和し、日々の生活の中で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、健康状態や生活状況を書面にて報告を行い、面会時にも必ず近況報告を行っている。いろいろな情報を共有しながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でコミュニケーションを取って頂いたり、ご家族にご本人の思いを伝え、出来るだけご本人の思いが叶うよう動いて頂いたり途切れないよう支援している。	系列の老健や医院から入居される方が多く、生活歴等を共有している。介護施設を利用する家族に会いに行かれたり、併設のデイを利用する知人の面会もあり、居室で過ごされている。地域行事に参加した時に地域の方と再会したり、花見の時に自宅近くをドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の座席や入浴の順番など仲の良い方々がおしゃべりをして楽しい時間を過ごせるように配慮したりレクリエーション時には全体のバランスが取れるように体操やゲームなどで楽しんで頂いています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が併設施設だったりすると、仲のよかった利用者の方と面会に行ったりしている。入院された時にはお見舞いに行ったりする。外出先でご家族などに出会うと近況等を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや希望は、常々、日常の会話の中でお聞きし把握している。困難な場合は、ご家族に相談したり生活歴を参考にし本人本位に検討している。	ご利用者とテレビ等を見ている時に、外食や花見等の要望が聞かれる時もある。「家族と会いたい」「自宅に帰りたい」「ウナギが食べたい」「今の身体(体調)を保ちたい」「季節のお花が見たい」等の願いを叶えるように努めており、生活歴や家族関係も考慮し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など詳しくお聞きしている。日々、生活状況などの観察を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食欲の有無や摂取量、バイタルチェック等の健康管理、会話や表情などから精神状態を観察し必ず毎日、9人全員の利用者の方と会話を交わし状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすため、チームで意見交換をしながらアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している。	心身機能の維持・向上の視点を大切にされている。主治医や理学療法士(PT)からアドバイスを頂き、筋力アップに向けて手すりの掃除等をして頂いている。歩行訓練の目標も具体的に掲げ、役割も盛り込まれている。実践内容もチェックし、できなかった理由は介護日誌に記入している。	介護計画には詳細なケア内容が盛り込まれている。ADL・IADLなどの「有する能力」の評価も行われており、今後は「有する能力、原因、要望、できそうなこと」等を含め、アセスメントシートの記入を増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、業務日誌・介護日誌に行ったケアの実践・結果などを記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、形に捉われない柔軟な支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、必要性がある時は支援を行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人の訴えやご家族の希望を大切に、かかりつけ医より適切な医療を受けられるよう支援している。	2018年から往診が再開している(月2回)。通院介助は職員や家族が行い、定期健診(年2回)も受けており、受診結果は家族と共有している。酸素療法を受けている方もおられ、体調変化がある時は主治医に報告し、内服薬等に関する情報交換を続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の健康には気を配り、医療的に聞きたい情報や気づきなど、常に併設施設や協力病院の看護師に相談を行い適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者との密な情報交換や相談等を行い連携を行っている。日々の健康管理についても常々相談を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホーム内では、重度化や終末期のケアは行っておりません。	重度化や終末期の方針(協力病院への入院や併設施設への入所など)を契約時に説明している。体調に応じて法人全体で連携し、ご本人に適した生活場所を検討している。「ここがいい」と希望する方もおられ、重度化しないよう歩行訓練や生活リハビリを行い、入院・入所ぎりぎりまで誠心誠意のケアを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生への対応については、併設施設での講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	併設施設での地域合同消防訓練に参加。佐世保市グループホーム協議会で行う消防訓練にも必ず参加。ホーム単独での避難訓練等も定期的実施している。火災を未然に防ぐため、コンセントのホコリや台所での火の取り扱い等には充分気を配っている。	法人全体で消防計画を作成している。夜間想定避難訓練を行い(毎年11月)、消防署、消防団、地域の方が参加して下さり、ホーム単独の昼間想定訓練(2回)も続けている。法人の給食委託会社で災害時の食材を準備すると共に、併設施設にもホームの入居者9人分の飲料水と食料等を準備している。2016年に「自然災害対策訓練計画」を改定しており、今後も自然災害や防犯対策等の訓練を検討していく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつも目上の方であるという意識をもち人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが出来るよう気を配っている。	プライバシーに配慮し、常に「人生の先輩」として尊敬の念を持って接するように努めている。トイレ誘導の声かけ時は、ご本人の耳元で伝えたり、否定的な言動はしないように努めている。	ご利用者への言動が強くなる時は、職員同士で注意している。今後も職員個々にケアの在り方や言動を振り返り、「①明るい笑顔 ②思いやる心 ③気を配る心 ④優しい言葉かけ」と言う“4つの葉”の実践に繋げていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない会話の中で、本人の希望などを聞いたり、表したりする機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員の都合を押し付けたり、優先することなく個々のペースを把握した上でその方にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人が着たい物を着て頂いています。化粧水やヘアクリームなども本人の希望で購入しています。美容室も本人の希望する髪型にして頂くよう美容師の方に伝えて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、嫌いな物はできるだけ代替の物をだすようにしている。できるだけ、地元の旬の食材を使用し話題作りをしている。	「この食事は美味しい」と好評である。ご利用者もネギを切ったり、ツワやフキの皮むき等をして下さり、リハビリ目的でテーブル拭きをして頂く方もおられる。職員も一緒に食事をされており、楽しい時間になるように配慮している。体重管理も行われ、主食の量を個別に変えている。	開設当時から家庭的なホームを大切にされてこられた。今後もご利用者の「やる気」を引き出す声かけの仕方を検討し、畑の野菜(キュウリなど)を収穫したり、下ごしらえや下膳等の役割を増やしていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や血液検査の結果を元に、必要な水分量をできるだけ確保して頂けるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回口腔ケアの声掛けを行い実施して頂いている。口腔内異常及び義歯の不具合の訴えがある場合は歯科受診を行って頂いている。義歯の洗浄が不十分な方には、週1回の洗浄剤を使用し、殺菌消毒も行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパットを使用されている方など一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄が自立している方が多く、布パンツ(パット)を着用する方もおられる。起立訓練などのリハビリを行い、トイレで排泄できるように努めており、必要に応じて事前誘導や夜間のパット交換等を介助している。日内変動がある方もおられ、体調に応じた介助の検討を続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促進のため、朝食時にバナナと牛乳を付け、その他に野菜や果物を多く取り入れたバランスの良い食事を提供している。毎日ラジオ体操を行い適度な運動も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、火・金の13時30分～としているが希望があれば検討も行っている。	入浴好きな方が多く、順番表を作成し、廊下に貼っている。湯船に浸かり、職員と会話したり、ご利用者2人で入浴される方もおられ、柚子湯も楽しまれている。自立支援の視点も大切にされており、日々の「タオル体操」の成果で、洗髪や背中などが洗えるようになった方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせて休息して頂いている。体調不良以外の昼食後の臥床は夜の安眠を保つ為に1時間程で離床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の効能や用法用量など職員全体が把握できるようノートを作成、理解すると共に症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のやりたい事や趣味、楽しみなど一人ひとりの希望を聞きながら見つけ出すと共に生活歴や力を活かした役割なども探し出し気分転換も含め活気ある生活をして頂くよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望にそって、園芸や散歩など戸外に出掛けリフレッシュできるよう支援している。又、本人の希望がかなえられるよう、ご家族の方に協力して頂いている。	老健の行事への参加(年1~2回)や、外食(年4回)に行かれている。季節の花見(菖蒲、コスモス、桜、藤)も楽しまれ、家族も一緒に桜の花見に行き、お弁当を食べられたり、理学療法士(PT)も同行し、歩行状態などの評価をして下さった。地元の人祭りや公民館祭りでは、馴染みの方との再会を楽しまれた。	1日の中で10時から30分程度、散歩などができる時間があるとのこと。今後も日々の気分転換(外気浴、散歩、野菜の収穫など)の機会を増やしていきたいと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方に関しては、お金を所持して頂き、領収書と引き替えにお金を支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も本人の希望があれば、いつでも対応行っている。手紙も職員が投函行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間作りに気を配り、玄関・居間・食堂に季節の花を飾ったり、廊下にも季節感の出る小物を飾ったりしている。リビングには、家庭的な違和感のない家具や手作りの小物などを置いている。玄関・トイレ・各居室に消臭剤を置き不快感を取り除いている。	リビングと隣接する10畳の和室もフローリングに改築しており、障子も外し、眺めが良くなっている。鶯の鳴き声も聞こえ、四季を感じる事ができる。長い廊下で歩行訓練をされたり、リビングで洗濯物畳みをして下さっており、土曜・日曜は書道、写経、貼り絵等を個別に楽しませている。温湿度管理も行い、自然の風を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の明るい花壇の見える窓ぎわに気の合う仲間とおしゃべりしたりきままに過ごせるソファを置き居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた物や愛着のある物を持ってきて頂いたり、お花やご家族の写真などが落ち着くようなものを飾ったりとご本人が居心地よく過ごせるお部屋作りを工夫しています。	居室の窓からの眺めが素晴らしく、家族もゆつくり面会して下さっている。床はフローリングで、介助用ベッドが置かれている。趣味の道具、テレビ、ラジオ、本等を持ち込まれ、家族が写真ボードを飾って下さる方もおられる。換気も行われており、今後も筆筒の上のホコリ掃除を心掛ける予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には、手すりを設置しており、ベランダの物干し台は高低がある物を使用している。居室の扉には、ネームプレートを掛けており、入口には出入りが安全に行えるよう手すりを設置している。		